

【学校法人 平方学園は2023年で 90周年を迎えました】

明和児童クラブだより

第9号

2023年12月15日発行

(文責) 鷲頭

学校法人平方学園の90周年記念事業は中止になりました

学校法人平方学園は、先日の12月1日に、創立90周年を迎えました。11月30日(木)には、高崎市の群馬音楽センターにて創立90周年記念事業を実施する予定だったのですが、インフルエンザの流行を鑑みて、急遽、記念式典等の記念事業は残念ながら中止することとなりました。記念品の配付については、以下のとおり実施いたします。



本日(12月15日)の配付物について

12月15日(金)には、以下のような配付物がありますのでご確認ください。なお、15日に児童が欠席の場合には、18日(月)以降の配付となりますのでご了承ください。

1. 学校法人平方学園創立90周年記念事業記念品＝全児童に配付

標記の記念品のボールペンと平方学園のリーフレットを配付します。「3.」の書類が入った封筒に入れてあります。

2. 夏休みこどもミニ作文コンクールの作品と参加賞＝出品児童に配付

夏休み期間中に児童が取り組んだ「夏休みこどもミニ作文コンクール」(第一生命主催)の作品(作文と色ぬり)が返却となりました。保護者の承諾を得られた児童が出品したコンクールです。出品した児童全員に対して、参加賞も届きました。今年度のテーマは、「ぼくのわたしの、うれしかったこと」でした。

昨年入賞の菅野夏帆さんと田所晟奈さんに続き、今年も、木村心温さんと小林紗彩さんの2名が入賞しました。

3. 入会継続のための必要書類＝入会を継続する児童の保護者に配付

毎年お願いしている書類ですが、来年度も入会継続する児童の保護者の方をお願いしている書類で封筒には以下の4種類の文書があります。②～④の書類の提出書類期限は、令和6年1月19日(金)になりますのでよろしくお願いいたします。

①必要書類提出のお願い

②家庭状況調査票・・・今回から、A3ではなくA4の表裏となりました。

③就労証明書・・・勤務先の都合等で提出が間に合わない場合が想定されます(父用・母用)が、その場合には必ずご連絡ください。3月までお待ちすることが可能です。

④写真等公開にともなう調査のお願い

※②と④については、それぞれの児童の分が必要になりますが、③については、兄弟で1部あれば大丈夫です。

以上

弟さん・妹さんが新規入会する保護者の皆様へ

新年度に、1年生として新規に入会する弟さんや妹さんの分の書類は、別途依頼させていただきます。ただし、明和幼稚園の在園児については、明和幼稚園を通しての依頼となりますので、ご確認ください。

【連絡】

1. 1月の利用予定表の提出について

1月の利用予定表は、提出期限が、**12月18日(月)になっています**ので、よろしくお願いいたします。

2. 欠席連絡のメール送信について

欠席連絡については、今までも何度かお願いしてきましたが、欠席連絡の**メールが、当日の14:00過ぎに届き、配車計画やお迎えで混乱を来していることが**このところ多くなっています。毎日、13:00以降に、お迎えの人数によって配車計画を確定しお迎えに向かいますので、**どんなに遅くとも13:00までには、メールを**お願いします。

子育てのあれこれ No.22

今回は、**情緒の安定と自発性の発達**にも触れ「**いじめられない子やいじめに強い子にするため**

に」の視点も交えながら、いじめをなくすための子育ての基本的な考え方や理論などを紹介させていただきます。

前号では、子どもたちの対人関係能力の低下がいじめを招いていること、そのためには、大勢の仲間と自由に遊ぶ中で「けんかの学習」をすることが大切だということを紹介させていただきました。そして、そのために欠かせないのが、**情緒の安定と自発性の発達**ということでした。そこで、子育ての研究の第一人者である平井信義氏の理論に基づいた基本的なことを、以下に紹介させていただきたいと思います。

情緒の安定のためには 3歳ぐらまでの間の母親による**スキンシップと傾聴**により、**子どもの情緒の安定が図れるよう**になります。それにより、子どもにとっての「心の基地」ができるのです。心の基地ができた子は、しだいに母親から離れることができるようになり、自発性発達の準備ができます。また、母親と離れて安心して友達と遊んだりけんかをしたりできるようになります。3歳ぐらまでのスキンシップや傾聴が不足している子どもは、小学生になっても極端に甘えたり、母親離れができなかったりしますが、その場合は、毎日母親が抱きしめてやったり、ひたすら話を聞いてあげたりすることを続ければ、やがて情緒は安定して、今までの不足分を取り返すことができます。それは、小学校中学年ぐらまでなら可能です。

自発性の発達のためには 情緒の安定が図られている子は、いろいろなことにチャレンジする意欲も旺盛になります。そこで大切なのは、命に危険が及ばない限り、**できるだけ子どもにまかせ**ることです。いたずらをたくさんさせたり、けんかもたくさんさせることが大切です。そこで、適切な叱り方をすれば、子どもは失敗経験から学べます。子どもが自分で解決するのを**待ってあげるという姿勢がとて**も大切になります。自発性の発達のために特に重要なのが**体を使った自由遊びの経験**です。子どもはそのような遊びの中で、小学校以上で行う学習の基礎を身に付けるとともに、人間関係能力を身に付けていきます。特に、「上手に自己主張をする能力」や「ものごとを自分で決める能力」は、遊びの中で育まれていきます。大人が先回りして子どもに指示・命令することが多くなると、**自己主張が上手にできなかったり、ものごとを自分で決められなかったり**といった子に育ってしまい、**そのような子が最もいじめられやすい子、または、いじめに弱い子**ということになります。

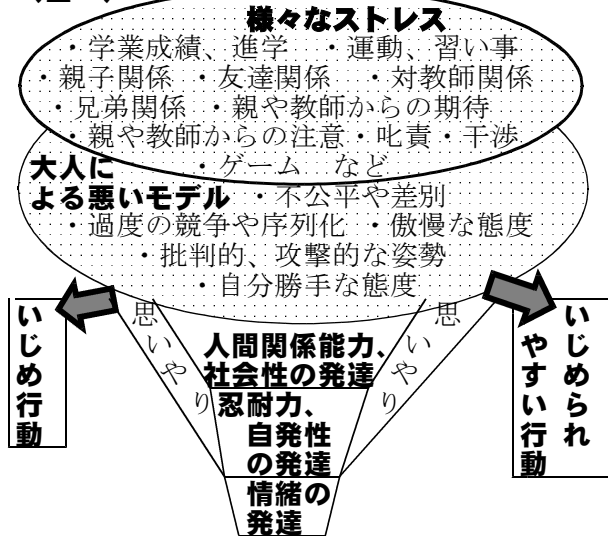
忍耐力の発達・人間関係能力、社会性の発達 無事に自発性が育っていくと、自己主張も上手にできるようになり、友達同士のトラブルも自分で解決できるようになるなどの人間関係能力が身に付いていきます。また、「**がまんする力**」などの**忍耐力**もついていき、それが**社会性の発達**にもつながっていきます。

いじめの発生は、以上、紹介させていただいたような、幼いうちに育てておかなければならない**能力がその子にどのくらい育っているか**ということと、その子が受けている**ストレスの大きさ**がどのくらいかといったことの**バランス**と「**大人によるモデル**」といった**教育環境**などが関係あります。下の(図1)のような状況にある子は、いじめる側にも、いじめられる側にもどちらにも傾きやすい不安定な状況にある子と言えます。

いじめと子育てに関するイメージ図

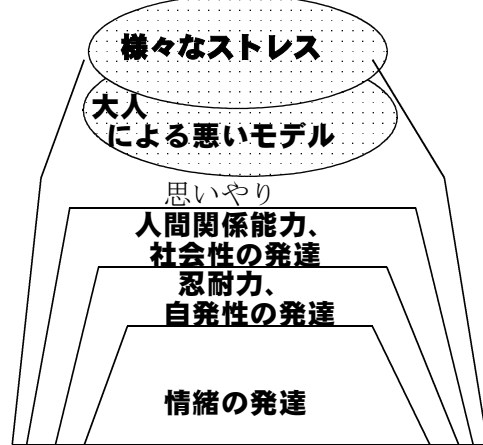
【いじめをしてしまう子・いじめられる子の場合】

(図1)



【いじめをしない子・いじめに強い子の場合】

(図2)



小学校のいじめで多いのが、中学年までは、自分の思い通りに友達を動かし「いじめる側」だった子が、高学年になり、「いじめられる側」になるといったパターンですが、その辺も含めて、今回は、いじめられない子にするための子育てを中心に紹介したいと思います。

